



きれいな学校 輝く笑顔 ～J(授業)A(挨拶)S(清掃)MI(身だしなみ)N(仲間)～

大久保中だより

〒338-0815 さいたま市桜区五関282

Tel 048-852-3554 Fax 048-840-1430

Mail Address : okubo-j@saitama-city.ed.jp

可能な限り「自分事」として

校長 海江田 なぎさ

東日本大震災から1年が過ぎた2012年の3月、私は、災害時のボランティアツアー（団体や旅行業者が人を募り、バスなどの移動手段、宿泊先を確保した上で被災地へ赴きボランティア活動を行うツアー）に参加しました。「大きなことはできないが、被災地のために、直接できることをしたい。」と思っていたこと、関東では少しずつ日常が戻りつつあり、「忘れないために、災害の大きさをこの目でしっかりと見ておきたい。」という思いがあったことなどが、参加の理由です。

金曜日の夜、仕事が終わってからバスに乗り、土曜日の朝に被災地に着いたら作業をし、現地の旅館に一泊、日曜日の午前中は観光をして帰途に着くという行程でした。現地のボランティアセンターで説明を聞き作業を始めたものの、実際は悪天候のため、作業らしい作業はあまりできませんでした。

忘れられないのは、石巻をバスで移動していた時のことです。市街地を走っていた時、それほどの被害は見当たらなかったのですが、道路の角を曲がったとたんに、景色が一変しました。津波の被害を受けた場所と免れた場所。地形的な差は、それほど大きくないように感じられたので非常に驚くとともに、「紙一重」という言葉を思い出しました。「今、不自由なく暮らせているのと被害に遭うのは、ほんの小さな差。いつでも自分の身に起き得ることなのだ。」と思いました。

このことは、災害だけでなく、身近なことや世界で起きていることにも当てはまると思います。しかし、それらすべてを「自分事」としてとらえて考えようとすると、それはそれでしんどくなってしまいます。だから、自分の心の状態に合わせて、可能な限り、今何ができるか、何をすべきか、何を考えるべきか、を考え続けていきたいと思います。

3年生は、1月に私立受験を終え、今は、多くの生徒が2月の公立受検に向けて追い込みに入っています。2年生は館岩自然の教室に向けての取組を、1年生は上野・浅草校外学習の振り返りを、5組は「まとめの会」に向けての活動を行っています。2月も、保護者・地域の皆様の御理解・御協力を賜りながら、充実した教育活動を目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。